

◆今期間のポイント

<主要じょう乱の概要>

- 台風第7号については最新の台風予報を参照。
- 23日は、高気圧がオホーツク海をゆっくり南に移動する。前線が華中から西日本付近にのびる。
- 24日から27日は、高気圧が日本の東から日本のはるか東へ移動し、前線が東シナ海から本州付近を通って日本の東にのびる。

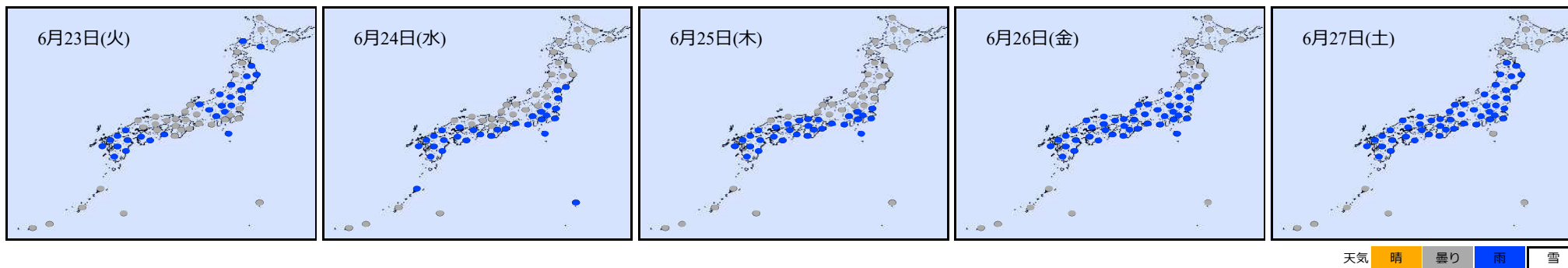
<防災事項> 11時、17時発表の早期注意情報に合わせて当項目は修正する場合があります。

- 23日から24日頃は、西日本では前線や暖かく湿った空気の影響で大雨となり、前線の活動の程度等によっては、警報級の大雨となるおそれがある。

※最新の早期注意情報、気象情報、台風予報も参照ください。

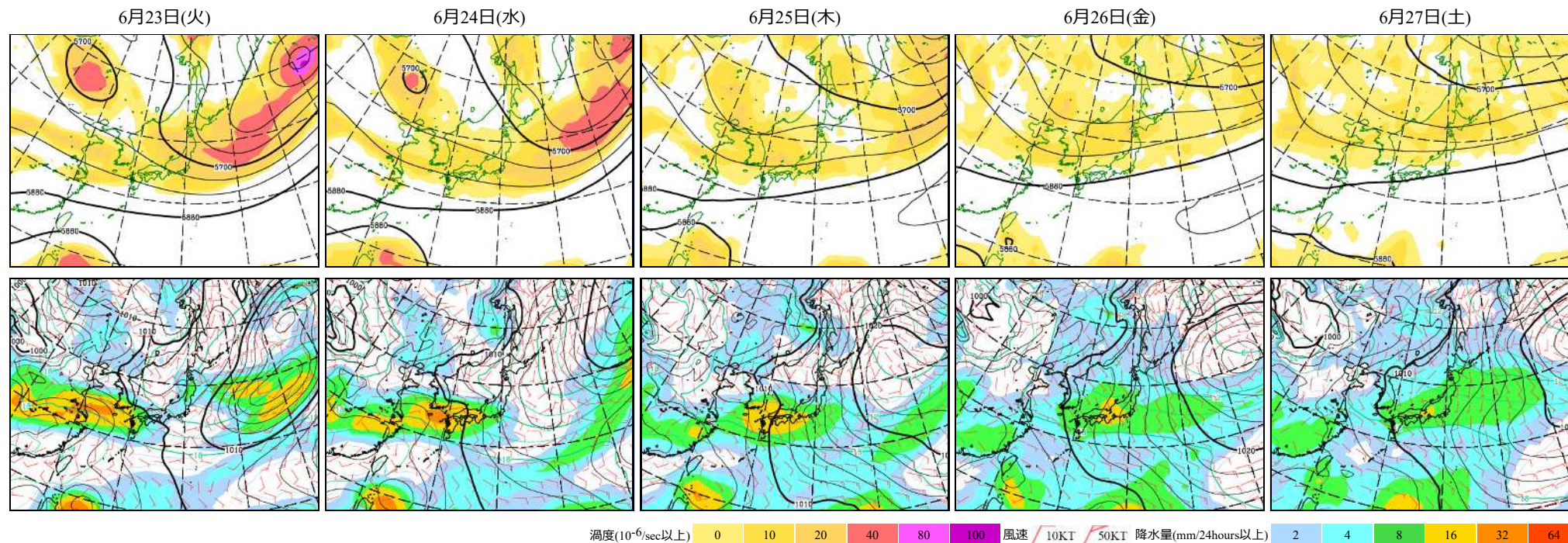
以下の資料は、気象事業者等が、気象庁の提供する週間天気予報の根拠を理解するための補助資料であり、そのままの形式で一般に提供することを想定して作成したものではありません。

◆10時時点の3～7日目の天気予報案 (11時以降は気象庁HP等にて発表予報をご利用ください。)

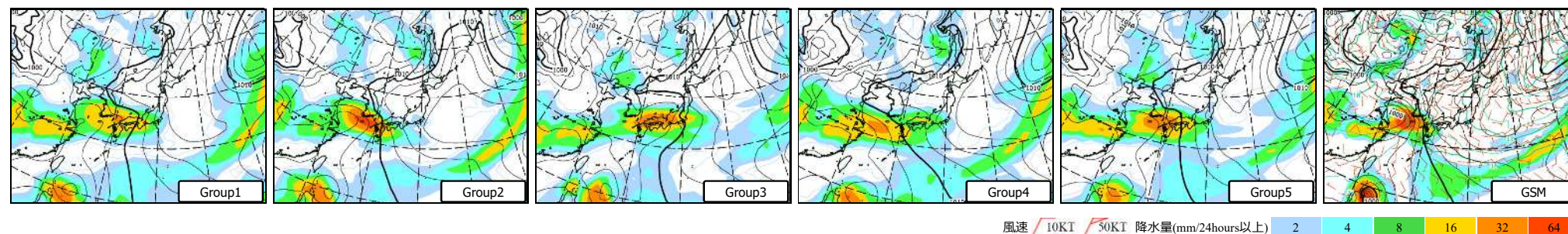


- 北日本から西日本にかけては、曇りや雨の降る日が多い。
- 沖縄・奄美は、雲が広がりやすく、24日は雨の降る所がある。

◆アンサンブル(ENS)平均予想図 上図：500hPa高度線、渦度 下図：海面気圧、地上風、前24時間降水量(21時)



◆6月24日のENSクラスター平均(グループ1~5)とGSMの地上予想図 海面気圧、地上風(GSMのみ)、前24時間降水量(21時)



◆昨日資料からの変化と予想のばらつき

- 最新のアンサンブル資料(ENS)は、23日はオホーツク海の高気圧からの張り出しが日本海付近で強まった。このため、23日は、西日本から東日本で降水確率ガイダンスの値が小さくなった所がある。
- モデル間の差は、期間の中頃から見られ、上空のトラフ、リッジの動き等にばらつきが見られる。また日本付近の前線や低気圧の位置等についても違いが見られる。
- スプレッドは期間の後半に大きくなり、特定高度線のばらつきも大きい。

◆ENSからの修正点とサブシナリオ等の補足事項

- 予報は、おおむね最新のENSを基に考える。